



## 美術館コンサート開催 満員の聴衆を魅了

10月2日、平福記念美術館で、「奇跡のピアノに引き寄せられた二人の芸術家」と題したコンサートが開催されました。

今年の3月に奇跡の復活を果たした旧小松小学校のピアノが取り持つ縁で、難病と闘いながら演奏活動続ける角館高校出身の声楽家本田武久さん（神奈川県在住）を励まそうと、日本画家細川良治さん（田沢

湖神代）が制作した肖像画が、コンサートで披露されました。

コンサートのオープニングは、神代出身の作曲家平岡均之の『若葉』。その後、細川さんが、絵に最後の筆を入れ完成させました。細川さんにとっては初めての人物画で、製作には2カ月かかったということでした。

# 奇跡のピアノに引き寄せられて

### 細川さんとピアノ

細川さんは、昭和29年神代村立小松小学校に入学しました。同年秋には新校舎が完成し、体育館のステージには新しいグランドピアノが置かれていました。「平岡均之先生の校歌を聞いたときにはとても感動しました。小学校時代はこのピアノとともに6年間過ごさせていただきました。蹴ったボールを側面に当てたり、かくれんぼの格好の場所になったりと、表面についた傷のいくつかは、まぎれもなく私たちがつけたものです」とピアノとの思い出を話してくれました。

### 奇跡のピアノ復活

このピアノは、学校統合により神代小学校に引き継がれていたもので、新校舎建築に伴い、処分される寸前に、市民有志の願いにより廃棄を免れたのでした。傷だらけだったピアノを復活させようと、有志による本田さんのチャリティコンサート開催などにより、今年の3月には美しい樺細工と塗装を施して生まれ変わり、奇跡の音色が披露されました。



## 二人の芸術家

本田武久さん (39歳)



角館中学校、角館高校卒業。山形大学教育学部特別教科(音楽)教員養成課程音楽専攻卒業。5年間の社会人生活を経て、29歳の時に東京芸術大学音楽学部声楽科に入学。卒業後は、東京・横浜・海老名・秋田・山形・福島など全国各地でソロリサイタルを開催。コンクールでの入賞歴多数。ボイス・シャープ主宰。2010年6月CD「そして今日もうたをうたう」発売。神奈川県座間市住。

細川良治さん (63歳)



昭和49年に工務店を設立する。平成2年に地元画家から初めて日本画の手ほどきを受ける。平成3年第33回県展「滝」初出品初入選。平成4年工務店を閉じ、画家になる決心をする。平成6年河北展(東北最大公募展)「山韻」初出品初入選。平成7年第50回春の院展「樹韻」初出品初入選。平成8年再興第81回院展「樹響譜」初入選。平成10年日本美術院(院展)院友に推挙される。田沢湖神代住。

### 本田さんと細川さん

細川さんは、入院していた3月に、樺細工でみごとに復活したピアノ、そして難病と闘いながら日々ひたすら歌に生命をかけて歌い続ける本田さんをテレビで見ると、「本当に感動しました。この奇跡のピアノと同様に本田さんにも奇跡が起こってほしいとの願いを込めて絵を描く決心をしました」

細川さんは、4月に平福記念美術館で行われたコンサートなどを見に行き、本田さんの歌う姿をカメラに納め、スケッチを重ねました。「人物画を描くのは初めてなので大変でした。構図は、本田さんがピアノに手を添えて、声高らかに「若葉」♪あざやかなみどりよ♪の歌い出しの「あ」の場面です。バックは玉川のプナの緑です」

### 感謝の気持ちを込めて

本田さんは、披露された絵をみて、「7月ごろにみせていただきましたが、その時とはまた違う仕上がりで驚いています。細川さんとは、4月の桜祭りの時のコンサートでお会いして肖像画のお話を伺いました。この時はまだ桜が咲いていなくて残念でしたが、来年は見られるように、奇跡が起こるように感謝の気持ちを込めて歌っていきたいと思います」と話していました。

この日のコンサートでは、細川さんの絵を前にして、月に寄せる日本のうたなど10曲あまりが披露され、本田さんのテノールの響きが、満員の聴衆を魅了していました。

